

## 『増補 俳諧歳時記栞草』 所引漢籍校読記(2)

### —春之部・夏之部—

植 木 久 行

※ 江戸末期の嘉永4年(1851)、藍亭青藍は、曲亭(滝沢)馬琴撰『俳諧歳時記』を大幅に増補改訂した俳諧季寄、『増補俳諧歳時記栞草』を刊行した。この『栞草』は、解説の充実と検索の簡便さ(いろは順)から、明治・大正期、頻繁に刊行され、近年では堀切実校注『増補俳諧歳時記栞草』(岩波書店、岩波文庫、2000年8月・10月、2冊)がある。

本稿は、現在のところ最も優れる堀切実校注本を底本にして、その成果を参照しつつ、この代表的な江戸歳時記『栞草』に引かれて、季語・季題の解説等に用いられた漢籍を精読した校読記である。この『栞草』は、近現代の代表的な歳時記、改造社版『俳諧歳時記』(全5冊、1933年)の古書校注や、角川書店編『図説俳句大歳時記』(全5冊、1964~66年)の考証にも引用され、大きな影響力を持った歳時記である。この校訂作業を通して、歳時記(俳諧季寄)の解説に用いられた漢籍の実態も、かなり明らかになる。

なお青藍が増補した解説中の漢籍は、ほとんどみな天明三年(1783)に刊行された三余斎そふん文撰『華実年浪草』に基づいているが、本稿では、江戸俳諧季寄の季語・季題の解説に用いられた漢籍の具体相の把握を主眼としており、『栞草』に引く漢籍がほとんど『年浪草』からの孫引きであるとしても、江戸期の季語・季題の解説に用いられた漢籍であることには、少しも変わらないからである。なお『栞草』中に見える漢籍に対する簡略な解題は、『増補俳諧歳時記栞草』所引漢籍考(弘前大学人文学部『人文社会論叢』人文科学篇21号、2009年2月所収)のなかで発表した。

○ 本稿は、『増補俳諧歳時記栞草』所引漢籍校読記—俳諧の字義・春の部(1)—(『中国詩文論叢』第27集、2008年12月所収)の続篇である。

●170頁 ふななす鮒膾【膳夫録】(【 】は引用書中に見える漢籍を表す。以下、同じ)→宋・鄭望(之)撰『膳夫録』。『重較説郛』巻95、鯽魚膾の条。「…先なるはなし」まで。ただし『(唐宋)白孔六帖』巻16、膾などには、撰者名を「楊畢膳夫録曰」とする。

●173頁 好文木《晋の哀帝、…》→馬琴撰『歳時記』(『俳諧歳時記』の略称。以下同じ)には、「起居注、晋の武帝の古事」とする。『栞草』はそふん文撰『年浪草』[②-52](補注参照)に拠るが、馬琴『歳時記』は江戸・まきのしまあきたけ横島昭武『書言字考節用集』生植 6上、「好文木」の条(『起居注』よりとして、「晋武帝好

文、四時随之開花。…」)に拠るらしい。四時堂其諺撰『増訂滑稽雜談』卷2、梅の条は『栞草』(=『年浪草』)と同じ「哀帝」であり、出処を《同(晋書)起居註云》とする。現在のところ、中国漢籍の出処は未確認である。

〔翰墨全書〕羅江東が梅譜→元・劉応李撰『(新編)事文類聚翰墨全書』戊集卷6、花木門・文類に見える羅江東作「梅兄請名説」を指すか。それには「君其為花之儒者乎」とある。羅江東は通常、晩唐の羅隱を指すが、この文は内容から羅隱自身の作ではなく、彼に仮託された作品であろう。ちなみに梅兄とは、梅の花に対する雅称。『年浪草』[②-52]に拠る。『年浪草』は、『増訂滑稽雜談』卷2、梅の条に拠るか。

●174頁 木の芽〔説文〕→『説文解字』卷1下。

●175頁 黃鳥〔詩經〕→『詩經』小雅「綿蛮」と、小雅「伐木」。「遷喬木」は「遷于喬木」に訂正すべし。『栞草』は『年浪草』[②-71]の誤りを襲う。

●176頁 東風〔爾雅〕→『爾雅』釈天・風雨。《注に、谷風五穀養育意也》の典拠は未詳。北宋・邢昺の疏に引く三国魏・孫炎の語「谷之言穀、穀、生也。谷風者、生長之風也」(『爾雅注疏』卷5)を踏まえた記述か。『栞草』は『年浪草』[②-75]に拠る。ちなみに「春晴而風曰光風」は、『初学記』卷1、風に拠る。ただし本来は、「春晴日出而風曰光風」に作る。『栞草』は『年浪草』[②-75]に拠る。

●177頁 水葱摘〔本草〕→『本草綱目』卷19、薺草の〈集解〉所引《恭曰》。唐の『新修本草』の語である。直接の典拠、『年浪草』[③-72]には、正しく「本草蘇恭曰」とある。

紅梅〔范成大梅譜〕→『本草綱目』卷29、梅の〈集解〉所引。「色淡紅」は本来、「杏梅色淡紅」(杏梅は色淡紅)に作る。南宋の范成大『梅譜』から直接引用したものではない。『年浪草』[③-83]には、「名杏梅者色淡紅」とある。

●178頁 辛夷〔格物論〕→『古今合璧事類備要』別集卷31、辛夷花の「格物総論」。

●183頁 天穿〔事文類聚〕→『(新編)古今事文類聚』前集卷6、「繫煎餅」の条。『拾遺記』(後秦・王嘉撰、梁・蕭綺録)より引用とする。

●184頁 田鼠化して鶉となる〔月令〕→『礼記』月令篇。

〔衍義本草〕→北宋末・寇宗奭撰『本草衍義』。ここは『本草綱目』卷51下、鼯鼠の〈集解〉所引「宗奭曰」に拠る。「僅に能行(こと)長寸許り」は、「僅に能行(こと)尾は長寸許り」が正しい。また「頂尤短く」は「項尤短く」の形訛。(尤は「尤も」)。いずれも『年浪草』[④-55]の誤りを襲う。

〔夏小正〕→『御定淵鑑類函』卷428、鶉の条所引。『大戴礼(記)』夏小正篇は、文字が少し異なる。

●188頁 葭灰飛〔歳時記〕→未詳。『年浪草』[①-84]に拠る。同じく『年浪草』に拠る馬琴『歳時記』も、「曆者候気」の語まで引く。「至則灰飛」を「則ち灰の飛ぶに至て」(『年浪草』)と訓むのは誤読。「(気)至れば則ち灰飛んで」と訓むべし。ちなみに「立春日」以下の文は、明・王宇撰『(新鑄時用通式)翰墨全書』卷1、節序門・送礼翰、立春の「答」の条に見える句、「茲以候盈律於葭莖」に対する陳瑞錫の注に見えるが、上掲の「曆者候気」の部分のみ、「按曆者候気」に作る(出所を記さない)。つまり当該箇所は、「按曆者候、氣至則…」の方が穏当であろう。

<sup>あなやぎ</sup>**青柳**《時珍曰》→『本草綱目』卷35下、柳の〈集解〉。「ひらく」まで。「其ころ…」は、『年浪草』[②-84]の語。

●189頁 **甘海苔** [崔禹食經]→六朝?・崔禹錫『食經』。『和名類聚抄』(20巻本、以下同じ)海菜類・神仙菜の条所引。「錫」の脱字は『年浪草』[②-82]の誤りを襲う。

●190頁 <sup>あひまく</sup>**藍蒔** [蘇頌図経]→北宋・蘇頌ら撰『図経本草』。『本草綱目』卷16、藍の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。「二三月」は本来、「三月四月」に作る。「生す」は「生ず」。『栞草』は『年浪草』[③-63]に拠る。

**麻蒔** [蔵器本草]→盛唐・陳蔵器撰『本草拾遺』。『本草綱目』卷22、大麻の〈集解〉所引《蔵器曰》に拠る。

<sup>あぶつき</sup>**胡葱**《時珍曰》→『本草綱目』卷26、胡葱の〈集解〉。

<sup>あぶ</sup>**虻**《時珍曰》→『本草綱目』卷41、木虻の〈釈名〉。

<sup>あををむ</sup>**踏青** [鞞下歳時記]→明・彭大翼撰『山堂肆考』卷10、上履の条所引『唐鞞下歳時記』(唐・李綽撰)に拠るか。馬琴『歳時記』にも、ほぼ見える。

●193頁 <sup>あぶみ</sup>**薊**《蘇頌曰》→『図経本草』。『本草綱目』卷15、大薊・小薊の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。小薊の解説。「心中に花頭を出す。紅藍花の如し」は、「心中に**花を出す**。頭は紅藍花の如くにして」が妥当。頭は頭端部の意。『栞草』は『年浪草』[④-112]の誤りを襲う。

<sup>あゆのこ</sup>**鮎子** [崔禹錫食經]→『和名類聚抄』龍魚類・鮎の条所引。「鮎は鱗に似て小く」は、本来「(鮎は) <sup>かた</sup> <sup>ます</sup> **貌ち鱗**に似て小く」に作る。『年浪草』[④-127]には「貌」の字あり。

●195頁 **綵燕** [荆楚歳時記]→『荆楚歳時記』。ここは明末・<sup>ちんじんせき</sup>陳仁錫纂輯『潜確居類書』卷4、歳時部・春(綵燕)所引に拠る。「帖す」は貼る意。

●196頁 <sup>さんざちやう</sup>**三毬打** [歳時記]→『荆楚歳時記』。

[事文類聚]→『(新編)古今事文類聚』前集卷6、「爆竹驚鬼」の条。『神異経』は前漢・東方朔撰(仮託)。

《或云》→唐・道世撰『法苑珠林』敬法篇第7、「謗罪部感應縁」に引く『漢法内伝』。

●197頁 **さえかへる** [広韻]→『大宋重修広韻』卷4、互の条。

●200頁 **桜** [文選沈休文が詩に、山桜發欲燃]→『文選』卷27、南朝梁・沈約(字休文)「早發定山」(早に定山を發す)詩中の句。また「果木の名…ごとし」は、『文選』(六臣注本)の唐・李周翰注である。

【王荆公詩、山桜抱石映松枝】→王荆公は北宋の王安石。荆公は荆国公の称号を賜ったための呼称。「山桜」詩中の句。南宋・李壁撰『王荆公詩注』卷42に拠るか。『臨川先生文集』(四部叢刊)卷28などには、第五字目の「映」を「蔭」に作る。同意。

【司馬温公詩に、紅桜零落杏花開】→司馬温公は北宋の司馬光。温公は死後追贈された温国公に拠る呼称。「送酒与范堯夫」(酒を送りて范堯夫に与ふ)詩中の句。『温国文正司馬光文集』(四部叢刊)卷12などに見える。

●204頁 三月大根〔江陰県志〕→明・趙錦修、明・張袞纂『江陰県志』（『嘉靖江陰県志』）巻6、食貨記第4下、土産「蘆菔」の条。「蘆菔一種。暮春…」は、「蘆菔、一種は暮春…」の意。楊花蘆菔は、本来「楊花蘿蔔」に作る。（蘿蔔は蘆菔の俗称）。『栞草』は『年浪草』〔④-121〕に拠る。ちなみに江陰県は、現在の江蘇省江陰市付近。

●207頁 毬打〔三才図会〕→明・王沂纂集、王思義続集『三才図会』器用十一、穉毒の条。

【授時考】→清・蔣溥ら奉勅撰『欽定授時通考』巻33、碌磳の条。

●208頁 雉子〔月令〕→『礼記』月令篇。ただし仲冬は季冬の誤り。『栞草』は『年浪草』〔②-69〕の誤りを襲う。

●209頁 金衣鳥〔開元遺事〕→『開元天寶遺事』。ここは明・陳耀文撰『天中記』巻59、鶯の条所引『開元遺事』などに拠るか。通常は天寶遺事に属する。「金衣公子とす」まで。「故に…」は、『年浪草』〔②-71〕の語。

●212頁 菊若葉〔本草〕→『本草綱目』巻15、菊の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。《頌曰》とは北宋・蘇頌ら撰『図経本草』。直接の典拠、『年浪草』〔③-122〕には、「本草蘇頌曰」とする。「細苗を生ず」まで。以下は『年浪草』の語。

●213頁 曲水宴〔荆楚歲時記〕→『荆楚歲時記』。『初学記』巻4、三月三日の条や、『潜確居類書』巻4、歲時部・三月（流觴）の条所引に拠る。「水洧」は「水渚」の形訛。『栞草』は『年浪草』〔④-13〕の誤りを襲う。

●金鳳花〔時珍曰〕→『本草綱目』巻17下、毛茛（蔞）の〈积名・集解〉。「天灸自灸とす」は、「天灸・自灸とす」が妥当。「春 苗を生ず」以下が〈集解〉。「三缺」は「細缺」の誤り。また「実を結ぶ。形、綻とする春、桑椹の如くにして」は、その原文「結実状如欲綻青桑椹」を参照すれば、「実を結ぶ形（状）は、綻とする青き桑椹の如くにして」に訂正すべし。（欲は、…しそうだの意。「す」と訓む）「春」は「青」の形訛。『栞草』は『年浪草』〔④-106〕の誤りを襲う。

●214頁 金盞花〔時珍曰〕→『本草綱目』巻16、金盞草の〈积名・集解〉。「夏 実を結ぶ」以下が〈集解〉。

【周の憲王の曰、】→同条〈集解〉所引『救荒本草』。ちなみに『救荒本草』の撰者を明・周憲王（朱有燉）とするのは、李時珍の誤解。正しくはその父、明初・周定王朱橚（明の太祖朱元璋の第5子、1361～1425）である。「金盞児」花苗…は、「金盞児花、苗…」が妥当。『栞草』は『年浪草』〔④-108〕の誤りを襲う。〈集解〉所引『救荒本草』は、最後の「四時絶ず」まで。これは『救荒本草』巻2（巻上）、金盞児花に基づく。

●菊裁替〔月令広義〕→明・馮応京撰、明・戴任増积『月令広義』巻7、三月令・節令の条。

●216頁 雪解〔月令〕→『礼記』月令篇。ただし「立春之日」の語は見えない。

【風俗通】→後漢末・応劭撰『風俗通義』。ここは『古今合璧事類備要』前集巻4、氷、「流澌」の条所引に拠る。

【月令広義】→『月令広義』巻5、正月令・節令の条。

●219頁 <sup>ゆくわ ふうた</sup>油花のト [図経] →『潜確居類書』巻4、歳時部・三月(油花ト)の条所引に拠る。ちなみに『古今合璧事類備要』前集巻16、上巳の条などには「洛陽」を「池陽」に作る。これが正しいようである。この場合、[図経]は『池陽(池州)図経』を指そう。池陽(池州の郡名)は、現在の安徽省池州市。『年浪草』[④-13]も馬琴『歳時記』も、「洛陽」に作る。『増訂滑稽雑談』巻5には「池陽」に作る。

<sup>ゆすらのほな</sup>桜桃花【八閩通志】→明・<sup>ちんどう</sup>陳道修、明・<sup>はちびんつうし</sup>黄仲昭纂『八閩通志』。ただしこの記事は、見えないようである(少なくとも巻25・26の食貨の条には未見)。当該書は、八閩(福建省)の地方志。

●225頁 <sup>みのひのはらへ</sup>巳日祓 [韓林外伝] →前漢・<sup>かんえい</sup>韓嬰撰『韓詩外伝』。『栞草』は『年浪草』[④-6]の誤りを襲う。『潜確居類書』巻4、歳時部・三月(上巳)の条所引に拠る。

●227頁 <sup>みづふき</sup>水落花《時珍曰》→『本草綱目』巻33、芡実の〈集解〉。

●229頁 <sup>しゆくき</sup>淑氣【千門淑氣新】→南宋・<sup>しゆくぼく</sup>祝穆撰『(新編)古今事文類聚』前集巻6、「貼宜春字」の条に、「王沂公<sup>ママ</sup>『皇帝閣』立春帖子云、北陸凝陰尽、千門淑氣新」云々と見える。王沂公とは王岐公の訛。北宋の王珪を指す。(王珪撰『華陽集』巻5に収める「皇帝閣」[「立春内中帖子詞」の一])。

<sup>せうはくしゆ</sup>椒柏酒、<sup>さいしゆく</sup>椒酒、<sup>とこうせん</sup>椒觴 [荆楚歳時記] →『荆楚歳時記』。本条は隋の杜公瞻補注所引『四民月令』(後漢・<sup>さいしゆく</sup>崔寔撰、歳時型農書)のなかにあり、『初学記』巻4、元日の条所引『四民月令』にも見える。

[風土記] →呉末・西晋の周処撰『風土記』。ここは、北宋・<sup>ごしゆく</sup>呉淑撰・注『事類賦』巻4、春の条所引に拠る。

<sup>じよぐわん</sup>如願 [歳時記] →『(新編)古今事文類聚』前集巻6、「令如願」の条(『歳時記』より引用とする)に拠る。この『歳時記』は『荆楚歳時記』。ただし通行本からの直接引用ではない。「糞掃」は「糞壤」の誤り。『栞草』は『年浪草』[①-84]の誤りを襲う。馬琴『歳時記』は正しい。また一二点のみを用いた「令如願」(送り仮名なし)は、「願ひの如くならしめよ」の意。ちなみに『年浪草』は「令如願と云ふ」と訓む。

●230頁 [五雑俎] →明・<sup>ちようせつ</sup>謝肇淛撰『五雑俎』巻2、天部2。『年浪草』[①-84]は、正しく「五雑俎」に作る。

<sup>しんぱん</sup>春盤 [齊人月令] →初唐・孫思邈撰と伝える『齊人月令』。ここは『(新編)古今事文類聚』前集巻6、「食生菜」の条など所引に拠る。「立春日、…」の語は、同条に引く『四時宝鏡』(撰者不詳 [唐代後期の人])の「唐立春日、春餅・生菜、号春盤」を踏まえて少し改変したものか。『栞草』は『年浪草』[①-84]に拠る。

<sup>じやうしんのほらへ</sup>上辰祓 [西京雑記] →東晋・<sup>かつこう</sup>葛洪撰とされる『西京雑記』巻上(巻3)。

[五雑俎] 謝肇淛曰 →『五雑俎』巻2、天部2。

<sup>しだ</sup>齒朶 [本草] →『本草綱目』巻12下、貫衆の〈積名〉。

●231頁 人日 [東方朔占書] →『(新編)古今事文類聚』前集巻6、「人日多陰」の条所引。

●232頁 上元日 [五雑俎] →『五雑俎』巻2、天部2。

●233頁 <sup>したもえ</sup>下萌 [月令] →『礼記』月令篇(孟春之月)。

●234頁 <sup>しじみ</sup> 蜆 [隋書] → 初唐・魏徵、長孫無忌ら奉勅撰『隋書』。ただしこは、卷76、文学伝のなかの劉臻伝から直接引用したものではなく、『本草綱目』卷46、蜆の〈釈名〉所引に拠る。本来、「父」の下に「顛」の字あり。直接の典拠、『年浪草』[②-77]には、[本草時珍曰]に作る。ちなみに『隋書』に拠れば、劉臻は生来蜆を食べるのを好んだが、蜆の字が父親の諱（顛）と同音であったため、<sup>へんら</sup>扁螺と呼んだのだという。

[文字集略] → 南朝梁・阮孝緒撰『文字集略』。平安中期・源順撰『和名類聚抄』 亀貝類・蜆貝の条所引に拠る。「字又…」は『年浪草』[②-78]の語。

<sup>しどりやなぎ</sup> 櫻柳 [本草] → 『本草綱目』卷35下、櫻柳の〈釈名・集解〉。本条の最後まで。

【羅願爾雅翼】 → 南宋初・羅願撰『爾雅翼』。こは『本草綱目』同条所引。『爾雅翼』卷9とはかなり異なる。「及び木の聖なる…」は、「乃ち木の聖なる…」の誤り。『栞草』は『年浪草』[②-84・85]の誤りを襲う。「幹弱く」以下が〈集解〉。

<sup>しらも</sup> 白藻 [本草] → 『本草綱目』卷28、竜鬚菜の〈集解〉。「海中の石上」は、本来「海辺の石上」に作る。また「叢生して枝葉なし。状ち柳眼の如し。鬚長きもの尺余」の原文は、「叢生無枝、葉状如柳、<sup>かた</sup>根鬚長者尺余」。従って「叢生して枝なく、<sup>かた</sup>葉の状ち柳の如し。<sup>ひげ</sup>根の鬚長きもの尺余」に訂正すべし。『栞草』は『年浪草』[②-83]の誤りを襲う。ただし「眼」の字は『栞草』の引用ミス。さらに「錯」は「<sup>す</sup>醋」の形訛。『年浪草』は正しい。

●236頁 <sup>しやにち</sup> 社日 [尚書] → 未詳。『尚書』（書経）には見えない。『栞草』は『年浪草』[③-57]に拠る。『増訂滑稽雑談』卷3 [イ本補]にも見える。類似した語としては、『月令広義』卷6、二月令・節令、「封土為社」の注、「孝経緯、社土地之神」がある。「玄神」は「之神」の形訛か。

●237頁 [月令] → 『礼記』月令篇（仲春之月）。ただし「二月之節」の語はない。[月令]以下は、『潜確居類書』卷4、歳時部・二月（社日）の条に拠るだろう。

<sup>ぢうじゆ</sup> 社翁雨 [提要録] → 『潜確居類書』卷4、歳時部・二月の条所引。『提要録』は撰者未詳。宋代の作か。古くは『（新編）古今事文類聚』前集卷7、「社翁雨」の条などにも引かれる。

<sup>ぢろうしゆ</sup> 治聾酒 [石林詩話] → 宋・葉夢得撰『石林詩話』卷上（『重較說郛』卷87所収）。こは『潜確居類書』卷4、歳時部・二月（治聾酒）の条所引に拠る。

<sup>しかのつのおつ</sup> 鹿角落 [月令] → 『礼記』月令篇。

[衝波伝] → 『初学記』卷27、鹿の条などに引く。『衝波伝』の撰者等は未詳。

●238頁 上巳 [五雜俎] → 『五雜俎』卷2、天部2。

[宋書] → 南朝梁・沈約撰『宋書』卷15、礼志2。

<sup>じやうぢよ</sup> 上除 [徐幹齊都賦] → 『初学記』卷4、三月三日の条や、『潜確居類書』卷4、歳時部・三月（祓禊）の条に拠る。徐幹は後漢末の人。

<sup>かば</sup> 鞞鞞の戯 [荆楚歳時記] → 『荆楚歳時記』（隋の杜公瞻補注）。「羅索と云」まで。「秋千」は通常「鞞鞞」に作る。「施釣」は「施鈎」の形訛。『栞草』は『年浪草』[④-16]の誤りを襲う。

【涅槃経】 → 北涼・曇無讖識『大般涅槃経』卷1、寿命品第一。ちなみに[荆楚歳時記]から[天

宝遺事]の前まで、南宋初・胡仔撰『苕溪漁隱叢話』後集卷32、山谷下に引く『芸苑雌黃』（北宋末の嚴有翼撰）に見える。

[天宝遺事]→『開元天宝遺事』。ここは『潜確居類書』卷4、歳時部・二月（鞦韆）の条所引『天宝遺事』に拠る。「今、宮嬪笑て宴楽とす」の原文は、「**令宮嬪笑為宴楽**」。従って「宮嬪をして笑て宴楽をなさしむ」となる。『栞草』は『年浪草』[④-16]の誤りを襲う。

[古今芸術]→隋・煬帝撰『古今芸術図』（撰者不詳『古今芸術』20巻に図を加えたもの?）。『荆楚歳時記』（隋の杜公瞻補注）に見える。

●240頁 <sup>しやくなんげ</sup>石楠花 [本草]→『本草綱目』卷36、石南の〈釈名〉。

●241頁 <sup>ちんちやうげ</sup>沈丁花 [五雑組]→『五雑組』卷10、物部2。ちなみに『年浪草』[④-90]は正しい。「祥香とす」は、「祥瑞とす」の誤り。『栞草』は『年浪草』の誤りを襲う。

<sup>しんくは</sup>新桑摘 [月令]→『礼記』月令篇。ただし「孟夏之月」は「**季春之月**」の誤り。

●243頁 **人を帳に貼す** [荆楚歳時記]→『荆楚歳時記』（本文と隋の杜公瞻補注）。あるいは『太平御覧』卷30、人日の条所引に拠り、「新年…」云々は、割注「董勛曰」に基づくか。

●246頁 <sup>ひばり</sup>雲雀 [三才図会]→『三才図会』鳥獸二、告天子の条。「黎明詩に」は、「黎明**時**に」の形訛。『年浪草』[②-74]は正しい。

●247頁 <sup>ひじき</sup>鹿尾菜 [本草]→『本草綱目』卷28、鹿角菜の〈集解〉。

●254頁 **桃の酒** [蘇頌図経]→『図経本草』。『本草綱目』卷29、桃の条の、花の〈發明〉所引《頌曰》に拠る。

[太清本草木方]→『太清草木方』の誤り。南朝・梁の陶弘景撰『太清諸草木方集要』のことであろう。『年浪草』[④-8]の「太清草**本**方」も誤り。

●255頁 [千金方]→初唐・孫思邈撰『（孫真人）備急千金要方』卷59、腰痛第七（治腰脊苦痛不遂方の一）。ただしここは、『本草綱目』卷29、桃の条の、花の〈附方〉に、『千金』より引用として見える文字に拠るか。「井花水三升」は「井花水三**斗**」に作る。『年浪草』[④-8]は正しい。『栞草』の引用ミスである。

**桃花** [事類賦]→北宋・呉淑撰・注『事類賦』卷26、果部1、桃の条。

**木蓮花** [酉陽雜俎統篇]→晚唐・段成式撰『酉陽雜俎』統集卷9、支植上。「蓮花に似たり」まで。「冬」以下は、『年浪草』[④-88]の語。

●257頁 **生子を献ず** [李泌伝]→『新唐書』卷139、李泌伝。ここは『潜確居類書』卷4、歳時部・二月（中和節）の条所引に拠るだろう。

●258頁 **積糞** [礼記王制]→『礼記』王制篇の本文ではなく、後漢・鄭玄の注（『礼記注疏』卷12）。

**狗脊** [蘇頌図経]→『図経本草』。『本草綱目』卷12下、狗脊の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。「高一尺以来花なし」の以来は、概数を表す「～ぐらい」の意。また「其色黒」は、「其**根**黒」が正しい。『栞草』の引用ミス。『年浪草』[③-65]は正しい。

●263頁 **蘇枋**の花 [宗奭曰]→北宋末・寇宗奭撰『本草衍義』。『本草綱目』卷36、紫荆の〈集解〉所

引《宗奭曰》に拠る。「共に稜をなす」の「稜」は「稜」のほうが妥当。稜は根、かぶの意。『年浪草』[④-84]は「塚」に誤る。

《時珍曰》→『本草綱目』卷35下、蘇枋木の〈積名〉。

董《蘇恭曰》→初唐・蘇敬(宋代、避諱のために蘇恭に作る)ら奉勅撰『新修本草』。『本草綱目』卷26、董の〈集解〉所引《恭曰》に拠る。

## 夏之部

●267頁 [漢書律曆志]→後漢・班固ら撰『漢書』卷21上、律曆志上。『潜確居類書』卷5、歳時部・夏(太陽)の条所引などに拠るか。

炎帝[淮南子]→前漢・淮南王劉安撰『淮南子』天文訓。

祝融[礼月令]→『礼記』月令篇。「其神祝融」まで。ただし「夏月」の語は見えない。以下は元・陳澧撰『礼記集説』。「為火官正者」は、本来「火官之臣」に作る。『栞草』は『年浪草』[⑤-1]に拠る。

昊天[纂要]→『梁元帝纂要』。『初学記』卷3、夏などに引く。

朱明[爾雅]→『爾雅』积天。「長羸」は「長羸」が正しい。羸は盈と通じて充滿の意。《註》→東晋・郭璞注。通常は「氣赤而光明」のみであるが、『潜確居類書』卷5、歳時部・夏(朱明)の条には、「故曰朱明」も注とする。本条が『潜確居類書』に拠ることは明らかである。

蒸炒[韓文]→唐・韓愈の詩文集『韓文』(唐・李漢編、明・游居敬校。官板あり)卷4、「鄭群贈簞」(鄭群 簞を贈る)詩。ただし「蒸炒」を「蒸炊」に作る。当該作品には「蒸炒」に作る異文は見あたらず、季語「蒸炒」は誤解が生み出したものか。『年浪草』[⑤-2]には、「通俗志作蒸砂、砂字当作炒」(訓点省略)とあるが、従いがたい。ちなみに通俗志とは、兎島胤矩(員九)の季寄せ『俳諧通俗志』(享保2年[1717]刊)を指す。

[説苑]→前漢末・劉向撰『説苑』卷1、君道。ここは『芸文類聚』卷100、祈雨の条所引に拠るか。

●268頁 仲呂[月令]→『礼記』月令篇。ただし「律仲呂」は、本来「律中仲呂」(律は仲呂に中る)に作る。『栞草』の引用ミス。『年浪草』[⑤-2]は正しい。【高誘註】→『淮南子』時則訓。本条は『潜確居類書』卷4、歳時部・曆数(月応律)の条に拠る。「所謂旅陽成功」は、「所以旅陽成功」(所以に陽を旅けて功を成す)の誤り。

立夏[孝経緯]→『月令広義』卷9、四月令・節令の条所引に拠る。『孝経緯』は撰者不詳。漢代の人が『孝経』に付会して作った緯書である。

躡踵[広義]→『月令広義』卷9、四月令・名数の条。

小満[月令広義]→『月令広義』卷9、四月令・節令の条。

余月[爾雅疏积]→『爾雅』积天・月名(『爾雅注疏』卷5)。「爾雅疏积」の名は『年浪草』[⑤-3]に拠るが、ここは『爾雅』の本文であり、北宋・邢昺の疏ではない。

乾月[月令広義]→『月令広義』卷9、四月令・事文の条。「決遏一陰」の遏は、退(退の古字)の

形訛。直接の典拠、『年浪草』〔⑤-3〕は、字体自体は正しいが、ルビ「アツ」は誤り。

**正陽月** [西京雜記] → 『西京雜記』卷下(卷5)。ここは『月令広義』卷9、四月令・事文の条所引に拠る。

**巳月** [晋書樂志] → 初唐の房玄齡・李延寿ら奉勅撰『晋書』卷22、樂志。「四月為巳」は本来、「四月之辰、謂為巳」に作る。

**首夏、初夏、孟夏** [元帝纂要] → 『梁元帝纂要』。『初学記』卷3、夏などに見えるが、それには「初夏」の語は見えない。『年浪草』〔⑤-3〕には、「俱出于梁元帝纂要」とする。

●269頁 **蕤賓** [律曆志] → 『漢書』卷21上、律曆志上。

**芒種** [月令広義] → 『月令広義』卷10、五月令・節令の条。「斗指西為芒種」は、「斗指丙為芒種」の形訛。『栞草』は『年浪草』〔⑦-1〕の誤りを襲う。

**夏至** [同上] → 『月令広義』卷10、五月令・節令の条。

**茂林、蔚林** [纂要] → 『梁元帝纂要』。『初学記』卷3、夏などに見える。

**皐月** [爾雅疏釈] → 『爾雅注疏』卷5、釈天・月名。「五月為皐月」が『爾雅』の本文(ただし「月」字はない)。「五月得戊…」は北宋・邢昺の疏。『年浪草』〔⑦-2〕は「戊」を「戌」に誤る。

●270頁 **鶉月** [周礼注] → 『周礼』春官・大師の鄭玄注(『周礼注疏』卷23)。「…有鶉首」は、本来「…**在鶉首**」に作る。『年浪草』〔⑦-2〕は正しい。

**林鍾** [律曆志] → 『漢書』卷21上、律曆志上。「使長楸盛也」は、本来「使長**大楸**盛也」に作る。『栞草』は『年浪草』〔⑧-1〕の脱字を襲う。

[月令] → 『礼記』月令篇。《注》 → 『年浪草』〔⑧-1〕には「高誘注」とする。つまり本条は、『潜確居類書』卷4、歳時部・曆数(月応律)の条に拠る。

[白虎通] → 後漢・班固ら撰『白虎通』卷上、五行。「種類多也」は本来、「種類衆多」に作る。

**小暑** [月令広義] → 『月令広義』卷11、六月令・節令の条。

●271頁 **大暑** [同上] → 『月令広義』卷11、六月令・節令の条。

**季夏** [礼記] → 『礼記』月令篇。

[字彙] → 明・梅膺祚撰『字彙』寅集、季の条。

**瓜期** [左伝] → 『春秋左氏伝』莊公8年の条。連称管至父は、連称と管至父(2人の名)。「及瓜代」は本来、「**日**及瓜代」に作る。従って「日く、瓜に及んで代へん、と」となる。

**且月** [爾雅] → 『爾雅』釈天・月名。《疏云》 → 北宋・邢昺の疏(『爾雅注疏』卷5)。

**遯月** [易本義] → 元・胡炳文撰『周易本義通釈』卷2、「遯、亨、小利貞」の条。

**朔月** [礼記] → 『礼記』玉藻篇。

**陽氷** [月令広義] → 『月令広義』卷11、六月令・節令の条。「…賜大臣」まで。石季竜は、五胡十六国、後趙の君主石虎(字季竜)。

〈林滋賜氷の賦〉は、〈林滋**陽**氷の賦〉の誤り。馬琴『歳時記』も誤るが、『年浪草』〔⑧-2〕は正しい。林滋は晩唐の人。「陽氷賦」は、北宋初期の『文苑英華』卷39などに所収。水面に結んだ氷を陽

氷といい、「賜氷」とは異なる。

●274頁 覆盆子 [本草] → 『本草綱目』卷18上、蓬蘽の〈集解〉。「四五月実のる子を成こと…」の原文は、「四五月実成、子亦…」従って「四五月実成り、子も亦た…」となる。また「生なるときは黄也」は、本来「生なるときは青黄なり」に作る。『栞草』は『年浪草』〔⑥-18〕に拠る。

[本草附注] → 『本草綱目』同条の〈积名〉所引《当之曰》。これは三国魏・李当之（李譜之）撰『李氏薬録』を指す。『年浪草』〔⑥-18〕には、「李当之本草附注曰」に作る。

●275頁 紫羅傘 [本草図経] → 「葉、射干に似て…」以下、「鳶頭と云」までは、『本草綱目』卷17下、鳶尾の〈集解〉に見える《恭曰》《保昇曰》の語。北宋・蘇頌ら撰『図経本草』の語ではなく、図経の2字は衍字。ちなみに《恭曰》は唐初の『新修本草』、《保昇曰》は五代・後蜀の『重広英公本草』を指す。ただしここは直接の典拠、『年浪草』〔⑥-29〕によれば、「『閩書』曰本草図経云」として見える。つまり明末・何喬遠撰『閩書』卷150、南産志上所引に拠る。ちなみに「抽せず」は本来「高莖を抽せず」に作る。

石薺花 [本草] → 『本草綱目』卷20、石斛の〈集解〉。「亦折下して」は本来、「人亦折下して」に作る。『栞草』の引用ミス。『年浪草』〔⑥-33〕は正しい。また「俗に称して千年潤石薺とす」は、「俗に称して千年潤とす」の誤り。石薺（斛）は続く文の冒頭の語。『年浪草』の誤りを襲う。

●276頁 蘭花 [本草] → 『本草綱目』卷15、燈心草の〈集解〉。「これ即ち…」以下である。「堅小」は「緊小」の形訛。『年浪草』〔⑥-33〕の誤りを襲う。

●277頁 守宮を搗 [武帝記] → 『(新編)古今事文類聚』前集卷9、「捕守宮」の条に、「漢武帝時、…」など、類似の文が見えるが、『漢書』武帝紀等には見えない。[武帝記]とは前漢の武帝時代の話を意味するらしい。ただし『増訂滑稽雑談』卷9には、類似の内容を「武帝紀云」とする。

●281頁 泉 [爾雅] → 『初学記』卷6、総載水第1に引く『爾雅』に拠る。通行の『爾雅』には見えない。

[积名] → これは後漢末・劉熙撰『积名』ではなく、日本の貝原篤信（益軒）『日本积名』（卷上、地理の条）を指す。

井戸替 [漢書礼儀志] → 『事類賦』卷4、夏の条に引く『統漢書』（西晋・司馬彪撰）礼儀志に拠る。ほぼ同じく『太平御覧』卷23、夏至の条にも、〈統漢書礼儀志〉の語として見える。『栞草』は『年浪草』〔⑧-67〕の誤りを襲う。ちなみに通行の『後漢書』卷15、礼儀志中（=司馬彪『統漢書』礼儀志）には、「瘟疫を去べし」の語は見えない。

●282頁 白麻苺 [本草綱目] → 『本草綱目』卷15、苧麻の〈集解〉。

櫟の花 [時珍曰] → 『本草綱目』卷30、橡実の〈集解〉。

●284頁 梅天 [杜甫詩] → 盛唐・杜甫「梅雨」詩。〔嚴維詩〕 → 中唐・嚴維「奉和皇甫大夫夏日遊華嚴寺」（皇甫大夫の 夏日 華嚴寺に遊ぶに和し奉る）詩。華嚴寺は、現在の浙江省杭州市の寺。この2首は、『(新編)古今事文類聚』前集卷9、「四月」の条などに収める。

[潜確類書] → 『潜確居類書』卷5、歳時部・四月（梅雨）の条。

**葉柳** [本草] → 『本草綱目』 卷35下、柳の〈集解〉。

●285頁 **廿日草**、**花王** [白氏文集] 牡丹芳 → 『白氏文集』 卷4、「牡丹芳」(新樂府五十首、其28)。

[歐陽脩花積名] → 北宋・歐陽脩撰『洛陽牡丹記』花積名。「錢魯公」は「錢思公」(北宋の錢惟演。思は彼の初めの諡号)の誤り。「魏紫」は「魏花」の誤り。いずれも『年浪草』[⑥-21]の誤りを襲う。

**花宰相** [本草] → 『本草綱目』 卷14、牡丹の〈積名〉。

●286頁 **蓮の密** [同上] → 『本草綱目』 卷33、蓮藕の〈集解・積名〉。「嫩弱也」は「嫩弱也」の誤り。藕は、ハスの茎の、泥の中に没した部分を指す字。『葉草』の引用ミス。『年浪草』[⑥-40]は正しい。

**初松魚** [東医宝鑑] → (朝鮮)許浚奉勅撰『東医宝鑑』湯液篇卷2、魚部・松魚の条。『年浪草』[⑥-53]には、「毒なし」の下に「極珍」とある。これは本来、「味極珍」に作る。

●287頁 **蠅** [本草] → 『本草綱目』 卷40、蠅の〈集解〉。「其蛆を胎て蛆を生ず。灰中に…」は、「其蛆を胎て生ず。蛆は灰中に…」が本来の形。『葉草』は『年浪草』[⑥-73]の訓に拠る。「蚕蝎」は「蚕・蝎」の意。蝎は木喰い虫。

●288頁 **蠅虎** [同上] → 『本草綱目』 卷40、蠅の〈集解〉。

**方目鳥** [爾雅集註] → 『爾雅』 卷10、積鳥、「鷺、沢虞」の郭璞注。ちなみに「主の官を守るに似たることあり」の原文は、「有象主守之官」。従って「守るを主るの官に似(象)たることあり」と訓むべきであろう。

**苜草** [蘇頌曰] → 北宋の『図経本草』。『本草綱目』 卷16、地膚の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。「三十莖」は、本来「二三十莖」。『葉草』は『年浪草』[⑥-87]に拠る。

《陶弘景曰》 → 南朝梁・陶弘景撰『神農本草經集註』。『本草綱目』 卷16、地膚の〈集解〉所引。

**半夏生** [本草] → 『本草綱目』 卷17下、半夏の〈積名〉。「名守田」まで。

[礼月令] → 『礼記』 月令篇(仲夏之月)。「五月半夏生」の部分。

[月令広義] → 『月令広義』 卷10、五月令・政教の条。

**反舌無声** [月令] → 『礼記』 月令篇(仲夏之月)。

[礼記疏] → 『礼記注疏』 卷16、月令篇の、唐・孔穎達の疏。

●289頁 **紫羅欄花** [本草] → 『本草綱目』 卷19、白昌の〈集解〉。「溪孫」は「溪蓀」のほうが妥当。『葉草』は『年浪草』[⑦-68]に拠る。

●292頁 **半夏草** [蘇頌図経] → 『図経本草』。『本草綱目』 卷17下、半夏の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。

**蓮花** [爾雅] → 『爾雅』 積草。「其葉は荷」は通常、「其葉は蓮」に作る。従ってここは、「荷」に作る『初学記』 卷27、芙蓉の条所引に拠るか。《注に曰》 → 『爾雅注疏』 卷8、積草の邢昺の疏に見える後漢・李巡の説。

[愛蓮説] → 北宋・周敦頤(字茂叔)「愛蓮説」。『古文真宝』 後集、説類所収。

●294頁 **煮酒** [東医宝鑑] → 『東医宝鑑』 湯液篇卷1上、穀部・酒、煮酒の注。「夏月のむに宜し」まで。以下は『年浪草』[⑥-2]の語。

●295頁 <sup>にんどうの</sup>忍冬花《弘景曰》→『神農本草經集注』。『本草綱目』卷18下、忍冬の〈積名〉所引《弘景曰》に拠る。

《時珍曰》→同条の〈集解〉。「蔓延す」の原文は、「延蔓」。従って「蔓を延ぶ」の方が妥当。『年浪草』[⑦-54]は正しい。「薜荔」のルビ「へきれい」は、「へいれい」が正しい。また「相映ず」は、本来「黃白相映ず」に作る。『栞草』は『年浪草』の脱字を襲う。

<sup>にほ うきす</sup>鳩の浮巢【字彙】→『字彙』亥集・鳩の条。

●296頁 <sup>にんにくのね</sup>蒜根【本草】→『本草綱目』卷26、葫の〈集解・發明〉。

●297頁 <sup>ほほのはな</sup>厚朴花【本草】→『本草綱目』卷35上、厚朴の〈積名〉。

牡丹【事物紀原】→北宋・高承撰『事物紀原』卷10、牡丹の条。

●298頁 <sup>ほうちやくのはな</sup>宝鐸花【本草】→『本草綱目』卷17下、鬼臼の〈集解・發明〉。

●300頁 蛩【月令】→『礼記』月令篇。ただ通行の『礼記』には、「腐草化為蛩」のうち「化」の字がない。ここは『初学記』卷3、夏の条所引などに拠るか。

【蒙求】→盛唐・<sup>りかん</sup>李瀚撰・注『蒙求』卷上、「孫康映雪、車胤聚蛩」の条。岡白駒箋注『標題徐狀元補注蒙求校本』卷上などに見える。

●301頁 <sup>ほじん</sup>蒲人【金門記】→撰者不詳（唐代の人）『金門歳節記』？ 『月令広義』卷10、五月令・日次、蒲人艾虎の条所引に拠る。

●302頁 <sup>へびのきぬ</sup>蛇衣脱【本草】→『本草綱目』卷43、蛇蛻の〈積名・集解〉。

【別録】→『名医別録』（撰者不詳。後漢以来の名医の諸説を集めた医書）。『本草綱目』同条〈集解〉所引に拠る。

【蘇頌図経】→『図経本草』。『本草綱目』同条の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。

<sup>べにのはな</sup>紅藍花【同上】→『本草綱目』卷15、紅藍花の〈積名〉。なお「人家の場圃」以下は、同条の〈集解〉所引《頌曰》（『図経本草』）である。

●304頁 <sup>たういんふ</sup>桃印符【続漢書】→西晋・司馬彪『続漢書』。『年浪草』[⑦-21]に「続漢書曰劉昭云」と見えるごとく、『後漢書』卷15、礼儀志中（=司馬彪『続漢書』）、南朝梁・劉昭注であるが、少し異なる。ここは『（新編）古今事文類聚』前集卷9、「桃印符」の条所引（続漢書劉昭曰）に拠る。「綵僧」は「綵繪」の誤り。これは『栞草』の引用ミス。

●305頁 【本草】風俗通→『風俗通義』（後漢末・<sup>おうしやう</sup>応劭撰）。ここは『本草綱目』卷38、桃符の〈集解〉所引に拠る。「東陽」は「東海」、「太桃」は「大桃」が穏当。『栞草』は『年浪草』[⑦-21]の誤りを襲う。

<sup>たうらうま</sup>螳螂生【月令】→『礼記』月令篇（仲夏之月）。

土用【月令】→『礼記』月令篇（季夏之月の後）。「戊巳」は「戊己」の形訛。『栞草』の引用ミス。

《注に》→元・陳澧撰『礼記集説』。本条の最後まで。「中央上一令」は「中央は土の一令」が正しい。『栞草』は『年浪草』[⑧-62]の誤りを襲う。

●306頁 <sup>とうりゆうくわ</sup>東陵瓜【続蒙求】→朝鮮・柳希春撰『続蒙求分注』卷1、「召平種瓜、弘景樂松」の条。「邵

平」は「召平」の誤り。

●307頁 **心太** [本草] →『本草綱目』巻28、石花菜の〈積名〉。

[閩書] →明末・何喬遠撰『閩書』巻150、南産志上。「海石」は本来「海礁」に作る。

●309頁 **重五** [月令広義] →『月令広義』巻10、五月令・日次の条。

**粽** [字彙] →『字彙』未集・粽の条。「粽糴同」は、本来「粽同糴」（粽は糴に同じ）に作る。『字彙』は、この部分のみ。

[風土記] →呉末・西晋の周処撰『風土記』。ここは、清初・汪灝ら奉勅撰『佩文齋廣群芳譜』巻4、夏の条所引に拠る。

[月令広義] →『月令広義』巻10、五月令・日次の条。「粽の名」は本来、「粽子の名品」に作る。『栞草』は『年浪草』[⑦-8]に拠る。また割注「或は秤鎚粽につくる」は『月令広義』に見えず、『年浪草』の割注である。（ただし鎚を槌に作る）。

[続齊諧記] →南朝梁・吳均撰『続齊諧記』。ここは『潜確居類書』巻5、歳時部・五月（菰黍投江）の条所引に拠る。「汨羅」は本来、「汨羅江」に作る。『栞草』は『年浪草』[⑦-8]に拠る。

●310頁 [本草] →『本草綱目』巻25、糴の〈積名〉。

●311頁 **長命縷** [風俗通] →後漢・応劭撰『風俗通義』。[初学記] →唐・徐堅ら撰『初学記』。「所尊に献ず」まで、『(新編)古今事文類聚』前集巻9、「五彩糸」の条を基本にして、少し改変したものか。なお[風俗通]のみは、『潜確居類書』巻5、歳時部・五月（綵糸繫臂）の条も参照している。「綵糸」は、本来「五彩糸」に作る。[初学記]の「…臂に纏ふ」までは、『(新編)古今事文類聚』に『提要録』（撰者未詳。宋代の作か）よりの引用とする。「(一名)条達」以下が『初学記』の文であり、通行本では、巻4、五月五日の条に見える。「合歡索を結び、手の臂に纏ふ」の索は、「縷」の形訛。ここは「合歡を結び、手の臂に縷纏ふ」となる。『栞草』は『年浪草』[⑦-16]の誤りを襲う。

●315頁 **竹夫人** [刻熙積名] →未詳。『年浪草』[⑧-108]に拠る。刻は「劉」の形訛。『栞草』の引用ミスであるが、現行の後漢末・劉熙撰『積名』には見えない。

[山谷詩] 趙子充示竹夫人詩 →北宋・黃庭堅（号は山谷[道人]）の詩題「趙子充示竹夫人詩…」(『山谷詩集』巻9など)。詩題は引用文の後に、さらに「并以小詩取之二首」とある。

●317頁 **鸚鵡の舌を去** [零陵記] →北宋・陶岳撰『零陵記』（零陵[湖南省永州]の地方志）。『栞草』の引用ミス。『年浪草』[⑦-22]、馬琴『歳時記』は正しい。『(新編)古今事文類聚』前集巻9、「養鸚鵡」の条所引など。

《時珍曰》 →『本草綱目』巻49、鸚鵡の〈集解〉。

●322頁 **鬼百合** [時珍曰] →『本草綱目』巻27、百合の〈正誤〉。「山丹に似て稍長大也」は、本来「山丹に似て高し」に作る。

●323頁 **温風** [月令] →『礼記』月令篇。

[文選] →未詳。これは、梁・昭明太子蕭統撰『文選』ではない。ここは、『潜確居類書』巻5、歳時部・夏（朱夏）の条に拠る。「朱夏振炎氣、…」は、南朝宋・謝惠連「喜雨」詩中の句。『芸文類聚』

卷2、雨の条には「朱夏」を「朱明」、「温風」を「温飈」に作る。

《朱氏曰》→元・陳澧撰『礼記集説』卷3、月令篇に引く南宋・朱熹の語。

●324頁 <sup>おもだか</sup>慈姑《時珍曰》→『本草綱目』卷33、慈姑の〈積名・集解〉。

●325頁 <sup>わせいのでん</sup>和清天 [白氏文集] →『白氏文集』卷32、「初夏閑吟、兼呈韋賓客」(初夏に閑吟して、兼て韋賓客に呈す) 詩中の句。「沙提」は「沙堤」の形訛。

●327頁 <sup>わかめかる</sup>和布苴 [本草] →『本草綱目』卷28、石蓐の〈集解〉。「色青し」まで。「按るに」云々は、『年浪草』[②-82]の語。「紫苔」は「紫菜」の誤り。『栞草』は『年浪草』の誤りを襲う。

●334頁 <sup>かひこのまゆ</sup>蚕蛹 [月令] →『礼記』月令篇。

[周礼註] 云→『周礼注疏』卷30、夏官・馬質の「禁原蚕」に対する後漢・鄭玄の注。

●335頁 <sup>がぞめこ</sup>蟬子 [蘇頌図経] →『図経本草』。『本草綱目』卷45、蟹の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。

【蝦魁 [割注…嶺表録]】→唐末・(五代) <sup>りゅうしゅん</sup>劉恂撰『嶺表録異』(卷中、海蝦の条)。『(新編)古今事文類聚』後集卷34、「蝦」の条所引『嶺表録異』には、「前の両脚大にして、人の指の如し。長尺余、上に芒刺あり、銛くして手を斫。触べからず」に当たる箇所を、「前双脚有鉗、鉗麓如人大指、長三尺余、上有芒刺、如薔薇枝、赤而銛硬、手不可触」に作る。鉗は、(カニの) ハサミ。麓は太い(太さ)の意。「斫」は「硬」の形訛。「手を斫」は誤解である。『栞草』は『年浪草』[⑥-53]の誤りを襲う。

<sup>かほせみ</sup>翡翠《時珍曰》→『本草綱目』卷47、魚狗の〈集解〉。

●336頁 蚊 [事文類聚後集] →『(新編)古今事文類聚』後集卷49、「蚊」の条(群書要語)に、『説文』より引用の語として見える。後漢・許慎撰『説文解字』(大徐本) 卷13下である(「これを蚊と云」まで)。「或云」以下は、『年浪草』[⑥-71]の語。

《時珍曰》→『本草綱目』卷41、「<sup>ひぼう</sup>蜚虻」の〈附録〉に見える「<sup>ほうふり</sup>蚊子」の条。「<sup>ほうふり</sup>孑孓虫」は「孑孓虫」に作るべし。

蚊遣火 [月令広義] →明・<sup>ふうおうけい</sup>馮応京撰、明・戴任増釈『月令広義』卷8、夏令・事宜の「虫毒」の条などに拠るか。ただし文はかなり異なる。『栞草』は『年浪草』[⑥-72]に拠る。『増訂滑稽雑談』卷10にも見える。

●337頁 <sup>かはぼり</sup>蝙蝠《時珍曰》→『本草綱目』卷48、伏翼の〈積名・集解〉。「蚊、蛤をくらひ」の蛤は「<sup>ぜい</sup>蝸」(ぶよ)の形訛。『栞草』の引用ミス。『年浪草』[⑥-79]は正しい。

蚊帳 [説文] →『説文解字』卷7下。「単の帳」を「禪の帳」に作る。禪も「ひとへ」の意。

●338頁 <sup>がいこ</sup>艾虎、艾人 [荆楚歳時記] →『荆楚歳時記』。『潜確居類書』卷5、歳時部・五月(艾虎)所引に拠るか。「糸を剪て」の糸は、「<sup>つげ</sup>綵」の誤り。『栞草』の引用ミス。馬琴『歳時記』も誤る。また「或は糸を剪て小虎とす。以て艾の葉に帖て、…」は、「或は綵を剪て小虎とし、以て艾の葉を帖て(帖るに艾の葉を以てし)、…」のほうが妥当。『栞草』の訓みは、『年浪草』[⑦-7]に従う。

●339頁 [同上] →『荆楚歳時記』。

[金門記] →『金門歳節記』。ここは、『月令広義』卷10、五月令・日次、「蒲人艾虎」の条所引に

拠る。301頁に前出。

〔歳時雑記〕→北宋・呂希哲撰『歳時雑記』。ここは、『(新編)古今事文類聚』前集卷9、「画天師」の条所引に拠る。「天師」は「張天師」が正しい(2箇所)。直接の典拠、『年浪草』〔⑦-7〕がすでに脱する。

飾胄【荆楚歳時記】→『荆楚歳時記』。

●341頁 賀茂競馬【文昌雜録】→北宋・龐元英撰『文昌雜録』？ ただし通行本には見えない。ここは、『潜確居類書』卷5、歳時部・五月(躡柳)の条所引に拠る。ただし「躡柳」を「躡柳」に作る。2字は通用。

酢漿草花【蘇頌図経】→『図経本草』。『本草綱目』卷20、酢漿草の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。

●342頁 《時珍曰》→『本草綱目』卷20、酢漿草の〈積名・集解〉「一枝三葉兩片」は、本来「一枝三葉、一葉兩片」に作る。直接の典拠、『年浪草』〔⑦-62〕がすでに脱する。小角の角は、サヤの意。

●347頁 風薰【唐太宗詩】→唐・柳公権の句の誤り。『旧唐書』卷165、『新唐書』卷163、柳公権伝などのほか、『潜確居類書』卷5、歳時部・夏(薰風南来)などにも見える。この句は、文宗との聯句。従って太宗は「文宗」の形訛。『栞草』は『年浪草』〔⑧-63〕の誤りを襲う。

〔呂氏春秋〕→秦(戦国末)呂不韋撰『呂氏春秋』卷13、有始。『太平御覽』卷9、風の条所引などにも見える。

掛香【礼記内則】→『礼記』内則篇。《註》→元・陳澧『礼記集説』。

●348頁 射干【時珍曰】→『本草綱目』卷17下、射干の〈積名〉。「鳥の翅」「鳥扇」「鳥鬚」の鳥は、いずれも「鳥」の形訛。直接の典拠、『年浪草』〔⑧-75・76〕は、「鳥の翅」のみ「鳥の翅」に誤る。

〔爾雅翼〕→『蘇頌図経』(『図経本草』)の誤り。『本草綱目』射干の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。ただし終りの「根、毳多し」は、〈集解〉所引《保昇曰》の語。つまり北宋の『図経本草』と五代の『重広英公本草』である。ちなみに「高さ二三尺」は本来「高さ一二尺」、「狭く長し。横に張ること翅羽の形のごとし」は「狭く長く、横に張りて、<sup>ひら</sup>疏けば翅羽の形(状)のごとし」、「葉、中莖を抽でて」は「葉中、莖を抽でて」が妥当。『栞草』は『年浪草』〔⑧-76〕の誤りを襲う。

●349頁 楮花【時珍曰】→『本草綱目』卷36、楮の〈積名・集解〉。「朽やすし」まで。

〔許慎説文曰、…〕→後漢・許慎『説文解字』卷6上、楮の条に「穀也、穀の条に「楮也」とあるのを踏まえる。ちなみに、「楮又」は「楮叉」の形訛。

●351頁 夜白草【開元遺事】→『開元天寶遺事』。明・周嘉胄撰『香乘』卷9、「香艷各異」の条に同文が見えるが、典拠を『華夷花木考』と注する。『華夷花木考』とは、明・慎懋官撰『華夷花木鳥獸珍玩考』(華夷花木考卷6、開元遺事より引用の語は見えない)を指す。また明・彭大翼撰『山堂肆考』卷197、「百宝欄」の条所引に類似の内容を記す。「夜は彩白」は「夜は粉白」の誤り。直接の典拠、『年浪草』〔⑥-21〕は正しい。ちなみに通行の『開元天寶遺事』では、「花妖」と「百宝欄」の2条から成る。

蓬茸【歳時記】→北宋・呂希哲撰『歳時雑記』。『栞草』の引用ミス。『年浪草』〔⑦-14〕は正しい。

『(新編)古今事文類聚』前集卷9、「帶蒲人」の条所引などに拠る。

●352頁 [荆楚歳時記] → 『荆楚歳時記』(の補注)。

●355頁 <sup>たちぼな</sup>盧橘 [本草] → 『本草綱目』卷30、橘の〈集解〉所引『事類合璧』。これは南宋の『古今合璧事類備要』別集卷46、橘の「格物総論」の引用。別集は虞載撰。

●356頁 <sup>たままくばせを</sup>玉卷芭蕉《時珍曰》 → 『本草綱目』卷15、甘蕉の〈積名〉所引『埤雅』(北宋・陸佃撰)。「一葉枯る」は「一葉焦る」が妥当。ちなみに『埤雅』は、卷17、韃より引用。

筍《時珍曰》 → 『本草綱目』卷27、竹筍の〈積名〉。「非也」まで。「竹筍」以下は、『年浪草』[⑥-37]の語。

●357頁 <sup>たてくみむし</sup>蓼喰虫 [孔叢] → 『孔叢子』卷下、連叢子上。賦は前漢・孔臧の「蓼虫の賦」。『芸文類聚』卷82、蓼の条にも、「漢孔臧蓼虫賦」として収めるもの。

●358頁 端午 [珊瑚鉤詩話] → 北宋末・張表臣撰『珊瑚鉤詩話』卷2。

[風土記] → 呉末の周処『風土記』。清・陳元龍撰『格致鏡原』卷26、諸食饌の条所引に拠る。

<sup>たけうろひ</sup>竹植日 [晋書] → 『月令広義』卷10、五月令・日次の条所引に拠る。通行の『晋書』(初唐・房玄齡・李延寿ら奉勅撰)には見えない。

[竹譜] → 北宋の贊寧撰『竹譜』(『筍譜』)。『月令広義』同条所引に拠る。

●359頁 <sup>たかはづの</sup>鷹習を学心 [月令] → 『礼記』月令篇。《注》 → 陳澧撰『礼記集説』。

<sup>たけのかほぬぐ</sup>竹皮脱 [本草集解] 時珍曰 → 明・李時珍撰『本草綱目』卷37、竹の〈集解〉。「各時を以て」は「各(おのおの)時を以て」の意。

●360頁 <sup>たかむし</sup>篔 [説文] → 『説文解字』卷5上。「竹席也」まで。本条は[説文]以下、「席とす」まで、北宋・高承撰『事物紀原』卷8、篔の条に拠るだろう。

<sup>れだま</sup>鷹爪 [閩書] → 明末・何喬遠撰『閩書』卷150、南産志上、鷹爪の条。

●361頁 <sup>そらまめ</sup>蚕豆引 [時珍曰] → 『本草綱目』卷24、蚕豆の〈積名・集解〉。「豆、莢の状、」は「豆莢の状、」が妥当。

【王禎が農書】 → 元・王禎撰『農書』卷7、豌豆の条。「故に名づく」まで。「八月…」以下は、『本草綱目』同条の〈集解〉。「苗葉を生ず」は「嫩苗を生ず」の誤り。

●363頁 <sup>つちぼりのはな</sup>王孫花 [名医別録] → 撰者不詳『名医別録』(後漢以來の名医の諸説を集めた医書)。ここは『本草綱目』卷12下、王孫の〈集解〉所引『別録』に拠る。ちなみに海西と汝南は地名。それぞれ現在の江蘇省の県名と河南省の郡名である。従って「海西、川谷…」は「海西の川谷…」と訓むべし。

●368頁 <sup>ねむのはな</sup>合歡花 [神農經] → 撰者未詳『神農本草』(『神農本草經』。薬性・薬効の記述を主体とした最古・最初の薬物学書)。ここは南宋・祝穆撰『(新編)古今事文類聚』後集卷31、萱草花の条所引(『博物志』より引用)に拠る。通行の西晋・張華撰『博物志』卷4、薬論にも見える。ちなみに『本草綱目』卷35下、合歡の〈積名〉所引《頌曰》(『図経本草』)には、三国魏・嵇康「養生論」の語として見える。

《蔵器曰》 → 盛唐・陳蔵器撰『本草拾遺』。『本草綱目』卷35下、合歡の〈積名〉所引《蔵器曰》に拠

る。

●370頁 夏木立、夏草 [元帝纂要] → 『梁元帝纂要』。『初学記』卷3、夏などに引かれる。

●371頁 茄子花なすのはな《時珍曰》→ 『本草綱目』卷28、茄の〈集解〉。

蝸なめくぢり [説文] → 『説文解字』。ただし通行の『説文解字』には見えず、陳廷敬・張玉書ら奉勅撰『康熙字典』卷26、蝸の条に、「説文附」として見える。「皆殻からを…」の皆は「背」の形訛。従って「背からに殻を…」となる。

●372頁 夏山 [郭熙書譜] → 書譜は画譜の誤り。画の旧字「畫」が書の字に似ているための形訛。ここは北宋末の撰者不詳『宣和画譜』卷11、郭熙 (北宋の有名な画家) の条に見える。従って [郭熙書譜] は [画譜] 郭熙云などとすべきであろう。

●373頁 南天花なんてんのはな《時珍曰》→ 『本草綱目』卷36、南燭の〈集解〉。

[本草綱目] → 『本草綱目』卷36、南燭の〈積名〉。

瞿麦なでしこ [草花譜] → 明末・高濂撰『草花譜』。明・陶珽輯『說郭統』卷40所収。当該書は高濂撰『遵生八牋』卷16、燕閑清賞下、四時花紀から節録したものであり、本条は同巻の石竹花二種の条に見える。

[蘇頌] → 北宋の『図経本草』。『本草綱目』卷16、瞿麦の〈集解〉所引《頌曰》に拠る。

●374頁 夏菊なつぎく [本草] → 『本草綱目』卷15、菊の〈集解〉。

[菊譜] 引花史曰→花史は明・王路『花史左編』卷18、花之証。[菊譜] は誰の撰著か未詳。張孝祥 (字は安国、号は于湖居士、1132~1170)、陳子高 (名は克、号は赤城居士、1081~?)、王常 (伝不詳) は宋代の人。「符離」は地名。従って「符離王常」は「符離の王常」の意。「詞あり」の詞は、韻文の一種、「詞ツ」を意味しよう。ただし作品名は未詳。(後述の『百菊集譜』には「芳菲集に見ゆ」の原注あり) 本条は南宋・史铸 (号は愚齋) 撰『百菊集譜』卷3、古今詩話の条にも見える。張孝祥の詩とは、「分送四月菊、与提刑・都運二丈」二首 (『百菊集譜』卷4、唐宋詩賦の条所収。四部叢刊『于湖居士文集』卷11には、「偶得四月菊、以奉提刑運使」二首と題する) をいう。また陳子高の詩については、『百菊集譜』卷3に、「集中有五月菊云」として見える。

生胡桃なまくるみ [博物志] → 『博物志』卷6、物名攷。ここは『芸文類聚』卷87、胡桃所引などに拠るだろう。

[本草] → 『本草綱目』卷30、胡桃の〈積名・集解〉。

●375頁 茄子なすび [积氏切韻] → 唐・积弘演撰 (一説に弘演寺积某の作) 『积氏切韻』。源順撰『和名類聚抄』蔬類・茄子の条所引に拠る。「茄」は「茄子」に作るべし。

[杜宝拾遺録] → 唐初・杜宝撰『大業拾遺録』。大業は隋の煬帝の年号 (605~617)。ここは『太平御覽』卷977、茄の条所引《杜宝大業拾遺録》に拠るか。また明・陳耀文撰『天中記』卷46にも見える。

《黄山谷曰》→ 北宋の黄庭堅 (号は山谷 [道人]) の語は、元・陰時夫撰、陰中夫注『韻府群玉』卷5、穀子茄の条や、清・陳元龍撰『格致鏡原』卷62、茄の条に見える。

《時珍曰》→ 『本草綱目』卷28、茄の〈集解〉。

●381頁 蘭湯らんたう に浴す [大戴礼] → 前漢・戴德撰『大戴礼』夏小正篇。

[楚詞] → 後漢・王逸編注『楚辞』に収める屈原「九歌」中の「雲中君」。本条の [大戴礼] と [楚

詞]は、『(新編)古今事文類聚』前集卷9、浴蘭湯の条所引に拠る。[楚詞]の「…沐芳草」は通常「…沐芳、華(采衣兮若英)」であり、草は華の形訛、下句の冒頭字に当たる。従って「芳草に沐す」ではなく、「芳に沐す」(芳は香水)である。(下句の訓は、華采の衣は英の若し)ここは『(新編)古今事文類聚』の誤りを襲う。直接の典拠、『年浪草』[⑦-21]も同じ誤りを犯す。馬琴『歳時記』も同じ。

[本草]→『本草綱目』卷14、蘭草の〈集解〉か。同じ文は見えないが、「…香草也」までであろう。『栞草』は直接の典拠、『年浪草』前条に拠る。

●382頁 <sup>むぎあき</sup>麦秋 [礼月令]→『礼記』月令篇。《註》→『礼記集説』。

[蔡邕月令章句]→後漢末・蔡邕撰『月令章句』。『太平御覧』卷21、夏上などに引く。「穀は…」は、「百穀は…」が妥当。

●383頁 <sup>むゆかのあやめ</sup>六日菖蒲《金門記》→502頁、神水の条に見える。後日発表する校読記の当該条参照。

●387頁 <sup>うつぼぐさ</sup>夏枯草《時珍曰》→『本草綱目』卷15、夏枯草の〈集解〉。

●388頁 <sup>うちば</sup>团扇 [五雜俎]→明・謝肇淛撰『五雜俎』卷12、物部4。

●389頁 <sup>うかひ</sup>鶺鴒、鶺鴒舟、…《弘景曰》→南朝梁・陶弘景撰『神農本草經集注』。『本草綱目』卷47、鶺鴒の〈正誤〉所引《弘景曰》に拠る。

●391頁 <sup>うぐひすね</sup>鶺鴒音を入 [礼月令]→『礼記』月令篇(仲夏之月)。

[蔵器] [本草拾遺]→唐・陳蔵器撰『本草拾遺』。(従って[蔵器本草拾遺]に作るべし) 『本草綱目』卷49、百舌の〈集解〉所引《蔵器》に拠る。

[礼記疏]→『礼記注疏』卷16、月令篇(仲夏之月)の、唐・孔穎達の疏。「蝦蟇とす」まで。

<sup>ほは</sup>萍の花 [吳晋本草]→三国魏・吳普撰『吳普本草』。『本草綱目』卷19、蘋の〈集解〉所引《普曰》に拠る。「一名廉」は「一名水廉」の誤り。

●392頁 <sup>うりばへ</sup>蠶 [爾雅注]→『爾雅』积虫篇の、東晋・郭璞の注。厳密には「喜んで」以下。

●394頁 <sup>のうぜんのはな</sup>凌霄花《時珍曰》→『本草綱目』卷18上、紫葳の〈积名・集解〉。「二三寸許」は、本来「三寸許」に作る。

●396頁 草茂る [元帝纂要]→『梁元帝纂要』。『初学記』卷3、夏などに引かれる。

[字彙]→明・梅膺祚撰『字彙』申集、茂の条。

●397頁 <sup>くも</sup>蜘蛛の子《時珍曰》→『本草綱目』卷40、蜘蛛の〈积名〉。

【王安石字説】→北宋・王安石撰『字説』(20卷。のち24卷)。散佚。

●399頁 <sup>くすりのひ</sup>薬日 [荆楚記]→南朝梁・宗懐撰『荆楚記』。隋の杜公瞻が補注を加えて、『荆楚歳時記』となる。

[夏の小正]→前漢・戴徳撰『大戴礼』夏小正篇。ここの[荆楚記][夏の小正]は、明・彭大翼撰『山堂肆考』卷11、蓄薬の条所引に拠るだろう。通行の『荆楚歳時記』にも見える。

<sup>くわんざう</sup>萱草花《時珍曰》→『本草綱目』卷16、萱草の〈积名・集解・积名〉。「又一説なり」まで。

【詩に】→この下に本来、「詩云、焉得諛草、言樹之背。謂憂思…」とある。「焉得諛草、言樹之

背<sup>いづく</sup>（焉んぞ諉草を得て、言<sup>こと</sup>に之を背に樹えん）の2句は、『詩経』衛風<sup>はくけい</sup>「伯兮」の句。また「蒲菘<sup>がまいら</sup>の輩<sup>たぐひ</sup>」は「菖蒲・菘の輩<sup>たぐひ</sup>」の誤り。

【李九華が延寿書に云】→元・李鵬飛<sup>りほうひ</sup>（号は九華澄心老人）撰『三元参贊延寿書』巻3。ここは『本草綱目』同条（釈名）所引に拠る。『本草綱目』巻1、序例上、引拠古今医家書目には、「李延寿三元延寿書」に作る。「…忘憂と名く」まで。「人をして昏然と酔る…」は、『三元参贊延寿書』には「人をして昏昏然と終日酔る…」に作る。

●400頁 栗の花 [蘇頌図経] →北宋の『図経本草』。『本草綱目』巻29、栗の（釈名）所引《頌曰》に拠る。「条長にして」の条は、枝の意。

山梔子<sup>くちのみし</sup>の花《時珍曰》→『本草綱目』巻36、梔子の（釈名・集解）。「謝雲通」は「謝靈運」の形訛。謝靈運は南朝宋の山水詩人として有名。

●401頁 水雞<sup>くひな</sup> [本草] →『本草綱目』巻48、秧雞<sup>おうけい</sup>の（集解）。

●403頁 雲の峯 [杜詩] →杜甫「多病執熱、奉懷李尚書」（多病 熱に執はれ [て苦しみ]、李尚書を懷ふ有り）詩中の句。『杜詩詳注』巻21などに所収。ただし「奇峯突兀…」は、通常「奇峯硜兀…」に作る。

【陶潜詩】→元初・黄堅撰『古文真宝』前集、五言古風短篇に収める東晋・陶潜（淵明）の「四時」詩。

●404頁 葛の花《蘇頌曰》→『図経本草』。『本草綱目』巻18上、葛の（集解）所引《頌曰》に拠る。「藤を引。蔓一二丈」は、「藤蔓を引。長さ一二丈」が正しい。

海月取<sup>くわげとる</sup> [崔禹錫食経] →崔禹錫撰『食経』。『和名類聚抄』亀貝類・海月の条所引に拠る。

●409頁 藪椿<sup>やぶつばき</sup> [蘇頌図経] →『図経本草』。『本草綱目』巻36、女貞の（集解）。

【山海経】→『山海経』巻4、東山経。「泰山に貞木多し」まで。『山海経』には「太山上多金玉・楨木」（太山上には金玉・楨木多し）に作る。この太山は、東岳泰山ではない。楨木に対する郭璞の注にいう、「女楨なり。葉は冬も凋まず」と。

●411頁 楊梅<sup>やまもも</sup>《時珍曰》→『本草綱目』巻30、楊梅の（釈名・集解）。「その形楊子の如くにして」は、「その形 水楊子の如くにして」の誤り。

蛇状子<sup>やぶじらみ</sup> [爾雅竊衣] →『爾雅』積草篇、竊衣の条。《注》に云→東晋・郭璞注。

●414頁 菰苳<sup>まこもかる</sup> [蘇頌] →『図経本草』。『本草綱目』巻19、菰の（集解）所引《頌曰》に拠る。「白芽」は「白茅」の形訛。また「八月、花を開く」以下は蘇頌の語ではなく、同条（集解）所引《宗奭曰》、つまり北宋末・寇宗奭撰『本草衍義』の語である。

菽植<sup>まめう</sup> [広韻] →北宋・陳彭年・邱雍ら奉勅撰『大宋重修広韻』巻5、菽と荅の条。「大豆は菽也」「小豆は荅なり」は、本来「菽は豆也」「荅は、正名に小豆と云ふ」に作る。

●415頁 蠓<sup>まくなぎ</sup> [列子] →戦国・列禦寇<sup>れつぎよう</sup>（莊周以前の人）撰とされる『列子』巻5、湯問篇。「陽を觀て死す」まで。

【爾雅注】→『爾雅』積虫篇、「蠓は蠓蟻なり」の郭璞注、「小虫似蚋喜乱飛」（小虫は蚋に似て乱

飛を喜む)を指す。従って「爾雅注に、飛て礎ひくときは…」は、「爾雅注に、飛ぶ、と。礎ひくときは…」に訂正すべし。なお「爾雅注」以下、「雨ふる」云々までは、北宋・陸佃撰『埤雅』巻11、蠓の条に拠る。

甜瓜《時珍曰》→『本草綱目』巻33、甜瓜の〈釈名〉。

《王禎曰》→元・王禎撰『農書』巻8、甜瓜の条。

●416頁 罌粟の花《時珍曰》→『本草綱目』巻23、罌子粟の〈釈名・集解〉。「一名米囊」は「一名米囊子」が正しい。「鬢藥」は「鬚藥」の誤り。「謝て」のルビは、「謝て」であろう。「…半白の者、故に麗春といひ」は、本来「…半白の者、艶麗愛すべし。故に麗春といひ」に作る。

●417頁 蕙《蜀本草に曰》→五代・後蜀の韓保昇ら撰『重広英公本草』。ここは『本草綱目』巻12下、白及の〈集解〉所引《保昇曰》に拠る。厳密には「白及、三四月」以下である。「白色角頭に…」は「白色、角頭に…」の意。

夏籠、夏行[釈氏要覽]→北宋・道誠撰『釈氏要覽』巻下、安居の条。ちなみに【南山抄】は、北宋・元照撰『四分律行事鈔資持記』巻上4、釈安居篇を指す。

〔五雑俎〕→『五雑俎』巻2、天部2。「搭挂す」は、通行本に「挂搭す」に作る。僧が寺院に止まって外出しない意。

〔西域記〕→唐・玄奘述、弁機撰『大唐西域記』巻2、三国(印度総述・歳時)の条。

●418頁 [釈氏要覽]→『釈氏要覽』巻下、安居の条。「要期ここに任ずるを居といふ」は、「要期ここに住するを居といふ」の誤り。要期は願うこと。ちなみに【南山抄】は前出。『四分律行事鈔資持記』巻上4、釈安居篇を指す。

●419頁 競渡[月令広義]→『月令広義』巻10、五月令・日次の条。「起る」まで。「楚伝曰」は、本来「楚伝云」に作る。(『事物紀原』巻8、競渡の条参照)

〔歳時記〕→『月令広義』前条所引に拠る。『荆楚歳時記』の文を改変したものであろう。

〔荆楚歳時記〕→『荆楚歳時記』。「汨羅」は「汨羅」の形訛。

## [補 注]

『年浪草』(『華実年浪草』)は、尾形侑・小林祥次郎共編『近世後期歳時記本文集成並びに総合索引』(勉誠社、1984年)に収める影印本を使用し、[②-52]などは索引用に付された同書の番号である。ちなみに馬琴撰『歳時記』(『俳諧歳時記』)も、同書所収の影印本を用いた。

また『増訂滑稽雑談』は、「東京帝国大学珍藏の朱書入本を底本とし、図書館本を参じ厳密に訂して刊行す」という伊藤蓼衣増訂本(国書刊行会、1917年)を影印した、ゆまに書房本(1963年刊)を用いた。